

[1] 「孫引き」に関する文献上の記述

● 図表については①が有益だが、孫引き自体には否定的。一般論の③は、②を参考にしている。

① 井手翁・藤田節子著『レポート作成法: インターネット時代の情報の探し方』日外アソシエーツ、2003年。

引用した図表が、その文献の著書のオリジナルでなく、別の資料から引用したものである場合は、必ずその原典を探して、その図表を引用する。出典も原典の書誌事項を記入する。孫引き（引用の引用）をすると間違いが起こる可能性がある。《「図表の引用のしかた」107頁より引用》

② 宮田昇著『学術論文のための著作権 Q&A: 著作権法に則った「論文作法」』(新訂1版)東海大学出版会、2005年。(08年に新訂2版)

(その場合は、) 引用の箇所の直後に一次文献の出所明示をし、そこに注の表記をしておきます。そして文節の後か章節の後の注に、二次文献を明記するというのが、望ましいのではないのでしょうか。(以下略) 《「Q1-1 孫引き引用の出所明示」10頁より引用》

③ 北村行夫・雪丸真吾編『Q&A 引用・転載の実務と著作権法』中央経済社、2005年。

Q 孫引き引用の出所明示の方法を教えてください。

A 孫引き引用した部分の直後に原本・原典の出所を明示し、その部分を含む節や章の末尾に一次引用した著作物の出所を明示します。(以下略) 《79頁より引用》

出所：拙ブログ「もちもちはまがっこう：孫引き考(2)」(2008年12月15日)
<<http://hide-marocolog-nifty.com/blog/2008/12/2-d086.html>>

[2] やむをえず図表の「孫引き」をする場合

●例えば、日本環境研究所編『環境データ大行進♪』（2008年）という本を見ていて、その40ページに掲載されている「電子辞書のリサイクル率の推移」（出所：電子辞書愛好会編「L・O・V・E★電子辞書」2006年）という図を自分の論文で引用したい、と仮定する。

●本来は、電子辞書愛好会の元データ、すなわち原典を入手し、それを出所として明記しなければならない。しかし、「L・O・V・E★電子辞書」がどうしても見当たらない、ということがありえる。

図X 電子辞書のリサイクル率の推移



一次資料

原典：電子辞書愛好会編「L・O・V・E★電子辞書」2006年

出所：日本環境研究所編『環境データ大行進♪』2008年、40頁

二次資料

※「原典」は、「原出所」、「原資料」などの表現も可。

出所：拙ブログ「もちもちはまがっこう：孫引き考(1)」(2008年12月12日)

<<http://hide-marococolog-nifty.com/blog/2008/12/1-05b6.html>>